

ろくおん通信 12 月号

第3号 1986.12.10発行

盲人情報文化センター
録音製作係

医学用語について (その2)

重村 敏夫

(C) 音訳者の立場から

今回は音訳又は校正の立場から見てどんな問題があるのか、具体的に考えてみましょう。

1 まず専門書の読みは原則的に『医学大字典』又は『常用医語辞典』などに拠りますが、本文中のルビや巻末の索引は是非一度確かめて下さい。一般向の解説書や教養書的なものは、特に音読みに限られている術語は別として、出来るだけ訓読みにすることが望ましいと思います。これらのことに関しての問題点を次に取上げてみます。

2 左と右

2-1 まず一字の部位名又は器官名の前に左(右)がつく場合は、原則として音

読みです。

左(右) 眼、肺、心、腎、脳、冠、枝、葉。

但し次のものは訓読みもある。

左(右) 肩、胸、腕、脚、手、足。

2-2 慣習的に音読みするもの。

左(右) 方、側、縁、轉、旋。

2-3 二字以上の部位名又は器官名の前に左(右)がつく場合は、原則として訓読みにする。

左(右) 眼球、外耳孔、肩峯、腋窩、側頭部、側頸部、眼窩部、耳部、鎖骨部、季肋部、側腹部、殿部、肩関節、肘関節、手関節、指関節、股関節、膝関節、足関節、上肢、下肢、房室口、房室弁、結腸曲、気管支、半月弁、胸管、肝管、胃動(静)脈、胃大網動(静)脈、肺静脈、肝

静脈、冠状動（静）脈、胃リンパ節、
頸リンパ本幹、鎖骨下リンパ本幹な
ど。

3 側は原則として音読み

前側—後側、上側—下側、内側—外側
腹側—背側、頭側—尾側、健側—患側
麁側—尺側、胫側—腓側、伸側—屈側
壁側—臓側などがあります。

左側—右側は音訓両方あり、その場
合によって異なります。

一側—両側は音読みですが、片側—
両側は訓読みする方が多い場合が多い
です。但し病名は音読みとなります。

例：片側（へんそく）症候群、
片側性耳下腺炎。
両側（りょうそく）麻痺、
両側性肺炎。

4 人体体部用語

4-1 一字の場合は訓読みします。

頭、眼、鼻、舌、頸、項、肘、膝、
臑、手、足、脚、指、踵など。

臑は専門書の場合は“さい”です。

一字の体部用語の後に部がつづく
と音読みとなります。

例：頭部、項部、膝部、踵部など。

4-2 手指と足指

しゅし、そくしとどちらも音読みは
できますが、訓読みは“あしゆび”だ

けで“てゆび”という訓はありません。
これは一般に単にゆびと云えば、手の
指を意味する場合が多いからでしょう
か。専門書以外で手指と書いてあると
きは“てのゆび”と仮に読んでも良い
と思われます。

4-3 心肺（しんはいとしんばい）

しんはい—心肺、心肺標本、
心肺雑音。

しんばい—心肺率、人工心肺

5 その他

5-1 心博（しんはくとしんぱく）

しんはくの場合

心博動（しんはくどう）

心博出量（しんはくしゅつりょう）

しんぱくの場合

心博（しんぱく）

心博頻数（しんぱくひんすう）

心博調整（しんぱくちょうせい）

5-2 発疹と発赤

『国語大辞典』『広辞苑』では

発疹（はっしん又はほっしん）

発赤（はっせき又はほっせき）とあ
りますが、『医学大字典』『常用医語
事典』では“はっせき”の読みはあり
ません。特にルビがない場合は発疹（
はっしん）と発赤（ほっせき）に統一
してよいと考えられます。

5-3 分泌（ふんぴ、ふんびつ）と弛緩（

しかん、ちかん)

両方の読み方がありますので、該当の本のルビか索引で確かめるのが一つの方法です。もしなければどちらかに決め、その本の終るまで同じ読み方をする事。

5-4 治療関係

根治(こんじ)、難治(なんじ)

—医学大字典による—

完治(かんじ)、全治(ぜんち)

—国語大辞典による—

5-5 熱に関する語句で促音の場合

熱気浴(ねっきよく)、熱型(ねっけい)、熱性(ねっせい)、熱発(ねっばつ)、熱線(ねっせん)、

5-6 骨に関する語句で促音の場合

骨化(こっか) 骨核(こっかく)

骨間(こっかん) 骨幹(こっかん)

骨炭(こったん) 骨端(こったん)

骨釘(こってい) 骨頭(こっとう)

骨灰(こっばい) 骨片(こっぺん)

骨脂(こっし) 骨質(こっしつ)

5-7 舌に関する語句で促音の場合

舌筋(ぜっきん) 舌骨(ぜっこつ)

舌根(ぜっこん) 舌苔(ぜったい)

舌尖(ぜっせん) 舌底(ぜってい)

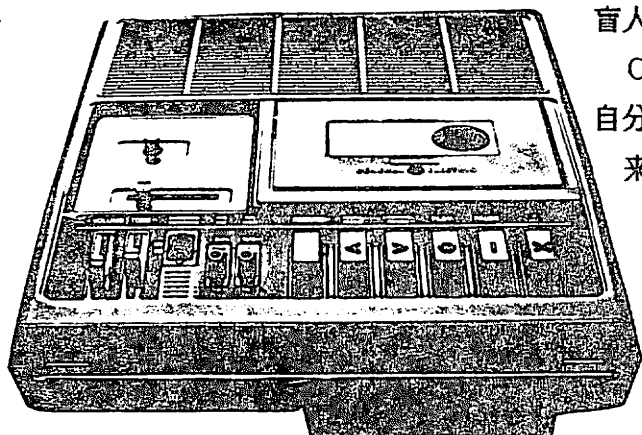
(以下次号)

年末年始の活動日ご案内

館内清掃のため、年末年始の活動日を次の通りとします。ご注意ください。

年末 12月25日(木)まで

年始 1月6日(火)から



A P H (AMERICAN PRINTING HOUSE)

盲人用4トラックテープ・2スピード・テープレコーダー

C-60で4時間の録音ができ、速度も自分の理解しやすい速度に変えることが出来る。また、トーンインデックスの録音ボタンもある。

中身は東京三洋電気製。日本製なのに、なぜ日本ではこの様なテープレコーダーが無いのだろう？

朝日ジャーナルの録音に携わってみて

つくしの会

こんなことがありました。

朝日ジャーナルの何月号かで「人文一」の読みが校正にあがってきました。読み手は、辞書を引き「ジンブン」「ジンモン」どちらの読みでもよいことを確かめた上で、モニターとも話し合い「私たちはジンモンと言ってきたし、その方が耳慣れてもいて言い易い」ということで「ジンモン」で読むことにきめたのでした。――

ベテランの校正・編集者のAさんはおっしゃいました。「そういう時、どちらが耳で聞いてわかり易いか、で判断してきました。」うかつだった自分を恥じると同時に、録音図書づくりの基本姿勢を改めて頭に刻みつけたものでした。

朝日ジャーナルの録音を始めてみると、講習だけの時とはちがって実にいろいろな面で刺戟を受けることとなりました。

つくしの会のメンバー夫々が抱いた感想です。

◎いや応なしにいろいろな文章を読むので、つらいけど勉強になりました。

◎人名、地名、その他調べるということに大分慣れてきました。

◎日本の政治、世界の情勢に興味をもつようになりました。

◎仕事の厳しさ、ということになります

が、個人的な事情はある程度考慮していただけるものの、やはり、何かを志し、一つのグループのメンバーとして活動するためには、いかに責任感と努力が必要かということをお各々の活動を通して学びました。いろいろな意味で勉強させていただいていると思います。

◎個性豊かな筆者の文章に、或は言葉に戸惑いながら今更ながら日本語の使い分けのむずかしさを痛感いたしました。

◎生を受けて今日まで数多くの言葉・文字が知識の中に織り込まれておりますが、その中に間違っただけの思い込みが如何に多かったことか、顔の赤らむ思いがいたしました。

◎新たな段階に向かうとき、衿を正す思いがいたしました。きつい反省の一年間でした。

◎長い記事で20～25分位でしょうか、その間、聞きやすい声で読み続けることがなぜ出来ないのだろう。自分の声と息づかいがなぜコントロールできないのだろう。

◎週に1日～2日出るだけとはいえ、まわりの理解と協力がいるのだな、と切に実感しています。録音前は夜更しと夫婦喧嘩はしないように気をつけています。

☆個人ケアについて

新しい本（蔵書、リクエスト図書）の録音にとりかかる前に、個人ケアを受けていただくようお願いしております。時間は1人30分～1時間程度です。予約は電話で出来ますので係までご相談下さい。来年1月の予定は下記の通りです。

1987年1月予定

1.14	(水)	13:30～
1.20	(火)	14:00～
1.24	(土)	13:30～
1.27	(火)	14:00～
1.31	(土)	13:30～

☆月例録音研究会のご報告

12月3日（水）、午後1時から4時まで「調査について」の研究会を行いました。

実際に活動なさっている方々ばかりでしたので、歴史という分野に限っての調べ方を工藤和子さんに、公共図書館の利用の仕方についてを広瀬弘子さんにお話しいただきました。

歴史関係の図書の音訳には系図、文書・図・写真の説明がつきまといます。適切な説明の言葉が見つからないという経験をお持ちの方が多いと思います。そのようなときの参考資料はどういうもの

があり、どのような手順で調べていくか、また、著者にはそれぞれ独自の解釈があり、原本にふられているルビ、特にその著者の第二作目の著書は重要な手がかりになる等、日頃の苦労話を交えながらお話下さいました。

その後、図書館の話、校正について、処理についてと大きく話は広がっていきました。研究会は録音しておりますので、ご希望の方は係までお申し出下さい。

☆『よめないものの調べ方ハンドブック』～点字図書・録音図書の製作に当たって～
神奈川県点字図書館連絡協議会編
各種用語、固有名など答えを得るためのカギを系統的に記述。

※お申し込みは録音製作係まで、一部100円です。

☆1月の月例会のご案内

1月の月例会の日程は次の通りです。

月例音訳技術研究会

1月13日（火）13:30～15:30

月例録音研究会

1月21日（水）13:00～15:00

「図表の処理 その2」

★「タイセツかダイセツか」

～清濁いずれが正しいか愛着からみ決着
つかず～

北海道の大雪山は、山の名称としては「タイセツザン」である。国土地理院の『標準地名集』や学校教科書、地図なども「タイ」としている。函館本線の列車名も「大雪（タイセツ）」である

だが、国立公園の名称としては「ダイセツザン」と濁音を採用している。昭和9年12月、第二次指定の五つの国立公園の一つとして大雪山国立公園が指定され、このとき、ローマ字でDAISETSUZANという読み方が示された。登山関係者も「ダイ」という人が多い。

なお、大雪山という単独の山はない。旭岳を主峰とする付近の山々の総称、わが国の国立公園中最大の23万ヘクタールという広大な区域を大雪山と呼んでいる。

その大雪を間近に仰ぐ旭川市は「アサヒカワ」で、自治省編『全国市町村要覧』にもそのように出ている。だが地元では「アサヒガワ」と濁音で呼ぶ人がいる。国鉄の駅名も「アサヒガワ」である。

旭川の呼び方は、清濁いずれが正しいかの論議はたびたび行われたようである。

『旭川市史』には「(明治)二十三年九月二十日の道庁令第六十一号によって次のとおり公布せられ、ここにはじめて

旭川村の誕生を見たのである」と述べて、その道庁令の文面を示しているが、それには「アサヒカハ」と清音でかながふつである。しかしまた『旭川市史資料』には、新村設置を布達した明治23年9月29日付の官報の文面が転載されていて、ここには「アサヒガハ」とある。『旭川市史』では、先に発行された道庁令を引いて「アサヒカハが最初の命名であることがわかる」と記述しており、これが現在「アサヒカワ」を公称としている根拠のようだ。

読みの清濁のゆれは、漢字表記の宿命だが、地元の人たちにとってはそれぞれの慣用に愛着があるだけにむずかしい問題だろう。

(稲垣 吉彦)

「日本経済新聞より」

原稿募集

皆さんが、日常の活動で疑問に感じていること、係に対する要望やご意見、掲載された原稿に対するご意見等なんでも結構です。係までお寄せ下さい。